

ストックにはどんな機能と効用があるか？

銃のストックは日本語では銃床とも呼ばれ、大きく分けて2種類がある。ボルトアクション式のライフルや狩猟用の散弾銃などに用いられる「曲銃床」と、アサルトライフルなどに用いられる「直銃床」である。

●ストックの基本は曲銃床

ストックの歴史は曲銃床から始まった。

曲銃床タイプのストックは、遠くの敵を正確に狙い撃つため、目線と銃身の高さがうまく一直線になるよう適度な角度がついており、自然に射撃姿勢をとることができる。

曲銃床の銃は発射の反動の方向とストックの角度がずれているため、射手への負担を軽減できる反面、撃った反動で銃身が跳ね上がってしまう特性を持っていた。しかし**ボルトアクション**式のライフルが主流であった時代、戦闘はまだ「1発撃つ毎に弾薬を再装填し、再び狙いなおす」というゆっくりしたものであったので、銃身の跳ね上がりもさほど問題にはならなかった。

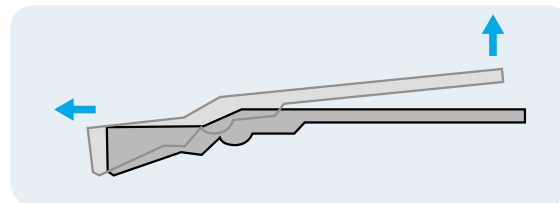
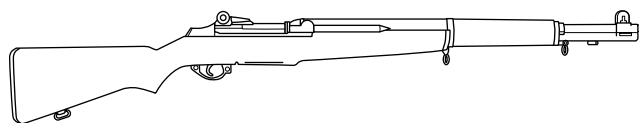
しかし第二次世界大戦を経て連発・連射が可能なライフルが登場すると、この跳ね上がりが問題になってくる。アメリカ軍が開発した**オートマチック・ライフル**『M1ガーランド』を**フルオート**射撃可能にした『M2』や『M14』といったライフルは、ガーランドと同じ曲銃床を採用していたため連射時の跳ね上がりがひどく、ほとんど**セミオート**でしか使い物にならなかったのだ。

直銃床は**アサルトライフル**などの「連射時の性能を重視した銃」に採用されることの多い方式で、反動の逃げる方向にそのままストックを伸ばしているのが特徴である。反動の向きとストックの向きが同じなので反動をコントロールしやすいが、反動がそのまま射手の肩にくるので、あまり大口径の弾薬を使用する銃には向かないとされる。

外見的な特徴としては、ストックに角度がついていないのでピストル型のグリップを持ち、曲銃床より銃身が下に来るので、サイトが高い位置に着いている。

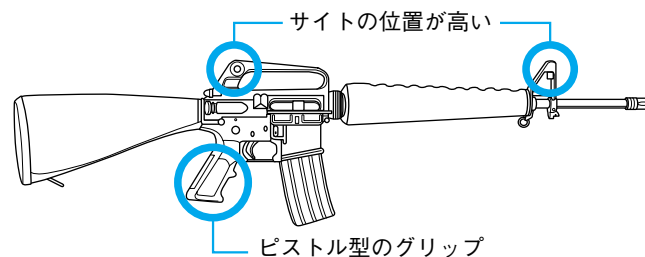
曲銃床と直銃床

曲銃床型ストックを持つM1ガーランド



曲銃床では形状的な問題から、発射の反動により銃口が上に跳ね上がる

直銃床型ストックを持つM16



直銃床では発射の反動と銃口の跳ね上がり方向が一致する

ワンポイント雑学

木製ストックは反りや歪みが起きにくいクルミ材が適しているが、一部の軍用銃には合板なども使用されていた。

ブルパップ方式とはどのようなものか?

オーストリアの『ステアーAUG』、フランスの『FA-MAS』、イギリスの『L85』などに採用されている方式で、弾倉がグリップの後ろ側にあるのが特徴。この方式を採用したライフルを「ブルパップライフル」という。

●コンパクトで命中精度の高い方式

ブルパップ式ライフルは1970年代の後半から姿を見せ始めた特徴的な外見を持つライフルである。グリップと弾倉の配置が通常のアサルトライフルとは異なり、弾倉がグリップ（引き金）の後ろ側にある。つまり機関部の位置が銃の中央部ではなく、ストック内部に内蔵されているのである。

銃の全長が同じなら、機関部が後方に配置されていた方が銃身を長くできる。そのため、ブルパップ式の銃はサイズが同じ場合はより銃身を長く、銃身の長さが同じ場合はよりコンパクトにできるのだ。

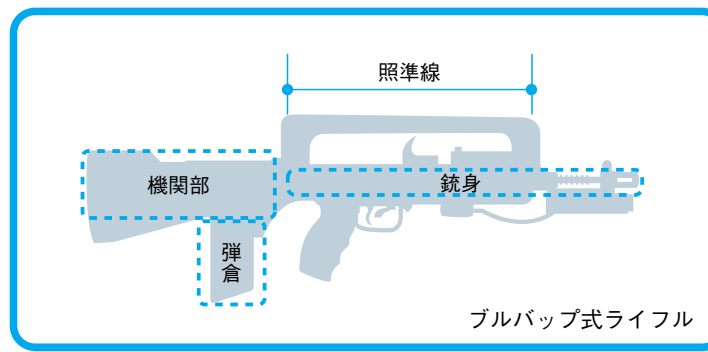
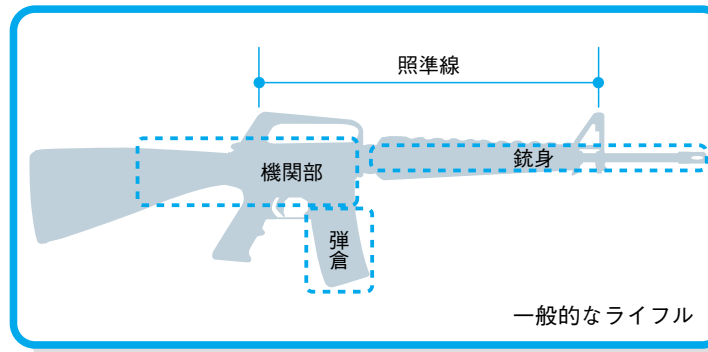
反面、ブルパップ式の銃は射手の利き手を選ぶ。機関部がストック内部にあるため、排莖の方向によっては空莖莖が顔面を直撃してしまう危険があるからだ。ブルパップ式ライフルを採用しているイギリスやフランスでは、左利きの兵士でも右利きに矯正して訓練している。

構造上フロントサイトとリアサイトの距離が近く、**オープンサイト**での照準がしにくいという欠点もある。多くのブルパップ式ライフルはこの欠点を解消すべく、等倍スコープなどの**光学照準器**を標準装備しているが、そうになると今度は、コスト高や破損しやすいといった問題が生じる。こうした問題があるため、ブルパップ式ライフルを採用する軍や警察組織は現在も少数派にとどまっている。

またブルパップ式ライフルはその形状やコンパクトさが災いして、銃剣の装着や銃剣戦闘に向いていないという評価もあるが、これは最初からそうした運用を想定していないと考えるべきであろう。

ブルパップ (Bull pup) の語源については定かではないが、パワフルかつコンパクトという意味で、「ブルドックの子犬」ではないかという説が有力である。

ブルパップ式ライフルの形状と構造



利点

- ・同じ銃身長で全長をコンパクトにできる
- ・銃をホールドしやすい

欠点

- ・照準線が短いので光学照準器などが必要
- ・機関部や排莖口が顔の近くに来るため危険

ワンポイント雑学

アメリカでもかつて「プッシュマスター」という「M16」のブルパップ銃が開発されたが、結局採用されなかった。